学校番号	３０４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	詳説世界史　世界史探究（山川出版社）						
副教材等	グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

1 年時に学習した「歴史総合」をもとに、世界の歴史について、単に歴史事項を羅列して覚えるのではなく、何故このような事が起こったのかという歴史的思考力を養ってほしいと思います。また、特に地図や史資料の読み取りが多くなりますので、様々な国の資料に触れて教養を深めてほしいと思います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　文明の成立と古代文明の特質	1　文明の誕生 2　古代オリエント文明とその周辺 3　南アジアの古代文明 4　中国の古代文明 5　南北アメリカ文明	a. 都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。 オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。 南アジアが南北に大きく二分されること、それぞれの風土に適合した生活が古くから営まれていたことを理解している。 東アジア各地の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。 南北に長く広がるアメリカ大陸の各地で、それぞれの地域の環境に適応した文化・文明が発展したことを理解している。 b. 壁画や粘土板などの資料をもとに、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。 ハンムラビ法典や『旧約聖書』などの資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ヴァルナ制やジャーティ集団の成立をもとに、アーリヤ人社会に富や地位の差が生まれていった背景や原因を考察し表現している。 青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。 南北アメリカ文明に共通する特徴、とくにユーラシアやアフリカの古代文明とは異なるものを多面的・多角的に考察し表現している。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

			c．文明の誕生について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 　オリエント文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 　南アジアの古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 　中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 　南北アメリカ文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			

	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	1 中央ユーラシア――草原とオアシスの世界 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成	a. 中央ユーラシアの厳しい環境に適応した遊牧民やオアシス民の生活のありさまや、彼らの周辺の諸勢力との関係を理解している。 秦・漢といった統一国家の支配体制について、それまでの春秋・戦国時代と比較したうえで理解している。 魏晋南北朝の動乱がどのように展開したのかについて、遊牧民族との関わりもふまえたうえで理解している。 隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。 b. 風土を示す写真や『史記』匈奴列伝などの資料をもとに、中央ユーラシアの人々の動向が、世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 兵馬俑や青銅貨幣など考古学的資料や『塩鉄論』禁耕などの資料をもとに、秦・漢の時代に生じた地域間の結びつきの変化や、統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 「女史箴図」などの図像資料や『顔氏家訓』などの資料をもとに、魏晋南北朝時代の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 壁画などの図像資料や『旧唐書』輿服志などの資料をもとに、隋・唐の社会の特徴や近隣諸国への影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c. 中央ユーラシアの動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 秦・漢帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 魏晋南北朝の動乱について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持っ	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

			て学習に取り組もうとしている。 東アジア文化圏の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			
2学期	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開	a. 南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 インド古典文化の黄金期とされるグプタ朝において、文化がどのように展開したのかを理解している。 東南アジアの大陸部と諸島部において、どのように国家が形成されたのかを理解している。 b. インド洋航海図（地図）や『エリュトゥラー海案内記』などの資料をもとに、インド洋交易の広がりを多面的・多角的に考察し表現している。 それまで仏教やジャイナ教が盛んだったことをふまえたうえで、ヒンドゥー教が社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現している。 東南アジアの風土や地形をふまえたうえで、南アジアや中国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。 c. 南アジアで生まれた諸宗教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 インド古典文化とヒンドゥー教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 東南アジアの諸国家について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展	a. アケメネス朝、パルティア、ササン朝といったイラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解している。 アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 ローマがどのような経緯で都市国家から帝国にいたったのか、またローマ人の文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 勢力を拡大させていたキリスト教をローマ帝国がどのように利用しようとしたのかを理解している。 b. ササン朝と法隆寺の「獅子狩」図案などの資料をもとに、イラン文明が世界の諸地域に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 オストラコンなどの考古学的資料や「ペリクレスの演説」などの資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 モザイク画などの図像資料や「神皇アウグストゥス業績録」などの資料をもとに、ローマが地中海世界を統一し、それを維持できた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 当時の地中海世界の状況をふまえたうえで、キリスト教が急速に広がった理由を多面的・多角的に考察し表現している。 c. イラン文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 古代ギリシアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 古代ローマについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 キリスト教の成立について、自分が抱	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

			いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			
3学期	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成	a. イスラーム教がどのように成立し、短期間で勢力を拡大していったのかを理解している。 西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを理解している。 b. イスラーム政権の拡大を示す地図やアラベスクなどの図像資料などをもとに、イスラーム教の成立が西アジアや北アフリカの社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 荘園の構造を示す概念図や『ガルベール＝ド＝ブリュージュの日記』などの資料をもとに、西ヨーロッパに成立した封建社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 c. イスラーム教の成立と拡大について、自分が抱いた興味・関心や疑問，追究してみたいことなどを見いだして，見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ヨーロッパ世界の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度